登録室ご紹介

四国がんセンター院内がん登録室紹介

『がん専門病院・院内がん登録』あるある

四国がんセンター　寺本典弘

四国がんセンター院内がん登録室のメンバー

四国がんセンター（四がん）は愛媛県松山市にあるがん専門病院です。愛媛県の都道府県がん診療連携拠点病院として、がん診療連携協議会を主催し、県内の全国がん登録業務を受託しています。これまでJACRの学術集会では、主にがん診療連携協議会のがん登録専門部会（専門部会）としての活動や、地域がん登録の話をしてきましたが、今回は四がんで行っている院内がん登録実務について紹介しようと思います。

四がんの患者は、ほぼ全員ががん患者、あるいはがんの疑いの人です。総合病院の方には参考にはならないかもしれませんが、『がん専門病院・院内がん登録あるある』として読んでみてください。

その1
『がん専門病院はケースファインディングが特殊』

初診料徴収患者のうち3ヶ月以内に入院がない外来患者については全例医療情報管理室の診療情報管理士がカルテチェックします。登録対象か悩ましい例は私を含む医師3人がチェックします。紹介状、抗がん剤の処方や病理結果からの拾い出しは不要です。

その2
『がん専門病院では、退院時サマリーと院内がん登録票がそっくり』

退院時サマリーの大部分を院内がん登録に必要な項目を書き込む枠が占め、それを抜き出すとそのままがん登録票が埋められます。

その3
『がん専門病院では臨床医のがん情報に対する意識が高い』

四がんでは、放射線科医、病理医がUICC-TNMを報告書に記載します。端境期では版数を明記するだけではなく、両版のTNMを書くこともあります。担当医は治療前カンファサマリーにcTNMと初回治療方針を記載することになっています。

その4
『Hos-CanR登録前に一手間』

診療情報管理士8人によって患者情報がMILという診療情報管理システムに登録されます。その際登録対象であれば、院内がん登録項目はすべて入力されます。院内がん登録室として別室は設けられていませんが、当院↗では院内がん登録の指針に適応すべく、医療情報管理室ごとセコム管理された個室に移動しました。

MILの腫瘍データは4人の腫瘍登録士が分担して“精査”し、多重かどうかなど細々とした院内がん登録ルールに合っているかどうか1件1件確認していきます。精査が終わると、国がん提出前にHos-CanRに移し込み、最終チェックします。

その5
『がん専門病院の登録士は医者の書き間違いを発見してしまう』

組織型、TNMはもちろん、原発など、臨床医や病理医の記載上のミスを腫瘍登録士がしばしば発見してしまいます。病理医としてはうざいのですが、大変助かります。

その6
『全国がん登録もするがん専門病院では院内のがん登録と、県の院内がん登録と、全国がん登録の区分が難しい』

愛媛県では、専門部会の主導で『がん登録で見る愛媛県のがん診療』という冊子が毎年作成されています。四がんの院内がん登録データの集計もこの枠の中で行っています。当然四がんもデータを専門部会の冊子担当者に提出しますが、実際には提出者と受け取り者は同じ人です。この他にも地方のがん専門病院では人材が限られているため、本来は全く別のものである全国がん登録・自院の院内がん登録・本来は研究部門であるがん予防疫学研究部の仕事をダブルワーク・トリプルワークでこなしています。こういう複雑な九龍城状態はいい点もあり、悪い点もあります（が詳細はまた今度）。

以上、四国がんセンターの院内がん登録でした。四がんは院内がん登録から見える自院の姿というものを日本で一番（かどうかは定かではないが）古くから、詳しく見てきた病院だと思います。詳細を書くスペースはありませんが、その姿はある意味残酷なほど正確でした。院内がん登録は比較可能でなければいけないので『他より抜きんでて高い精度!』は意味がないので目指しませんが、過去や未来につながる自院の役に立つがん診療のデータベースであり続ける様、維持していきたいと思います。